

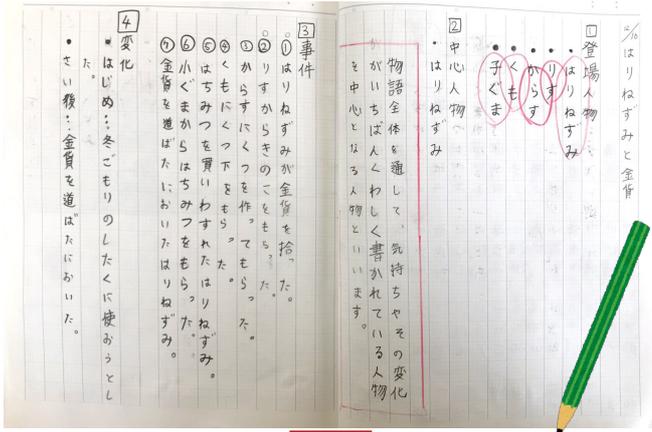
物語の人物相関図をつくろう

国語「はりねずみと金貨」(3年生)



テーマ

物語の人物相関図をつくり、あらすじをまとめよう。

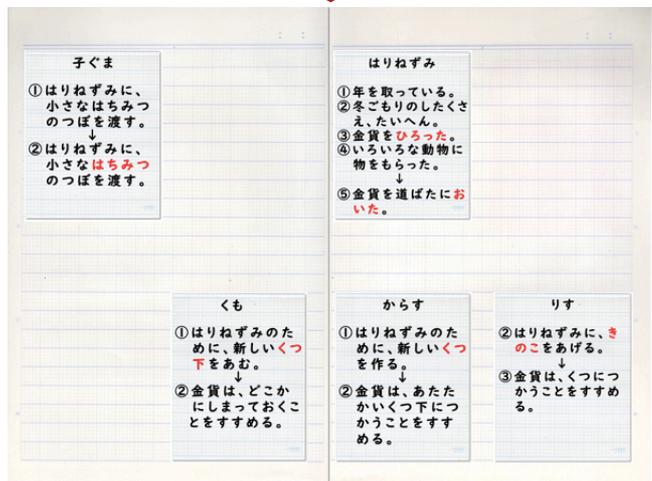


ステップ1 ノート

- ① 教科書を読んで、ノートに答えを書きましょう。
 - ア 登場人物はだれですか。
 - イ 中心人物はだれですか。
 - ウ 事件(できごと)を書きましょう。
 - エ 中心人物はどう変化しましたか。

ステップ2 TOSSメモ

- ① TOSSメモに人物をまとめましょう。(1枚に1人物)
- ② 人物どうしの関係を考えて、ノートにはりましょう。
- ③ どうしてそこにはったのか、理由をとなりの人にせつ明しましょう。



ステップ3 書きこみ

- ① 人物どうしの関係がわかるように、矢印や線をかきましょう。
- ② ノートの空いている部分に文字や絵をかい、わかりやすくしましょう。
- ③ 空いた所に「中心人物の変化」や「事件」を書いてもいいですね。



ステツプーノート

一 登場人物を書きましよう。

① はりねずみ

②

③

④

⑤

二 中心人物はだれですか。

三 事件(できごと)を書きましよう。

| | | | |
|---|----------------------|----------------------|--------|
| ① | はりねずみが | <input type="text"/> | をひろった。 |
| ② | りすから | <input type="text"/> | をもらった。 |
| ③ | からすから | <input type="text"/> | |
| ④ | から | <input type="text"/> | |
| ⑤ | <input type="text"/> | <input type="text"/> | |
| ⑥ | はりねずみが | <input type="text"/> | |

四 中心人物は最初と最後でどう変わりましたか。

最初…

のためにつかおう。

最後…

のためにつかおう。

ステップ2 TOSSEMOMO

1 TOSSEMOMOに登場人物をまとめましょう。

(例)

はりねずみ

- ①年を取っている。
- ②冬ごもりのしたくさえ、たいへん。
- ③金貨をひろった。
- ④いろいろな動物に物をもらった。
↓
- ⑤金貨を道ばたにおいた。

TOSSEMOMOをここにはろう。

2 人物どうしの関係を考えて、ノートにはりましょう。

(例)

| | | |
|---|--|---|
| 子ぐま ①はりねずみに、小さなはちみつをつぼを渡す。 ↓ ②はりねずみに、小さなはちみつをつぼを渡す。 | はりねずみ ①年を取っている。 ②冬ごもりのしたくさえ、たいへん。 ③金貨をひろった。 ④いろいろな動物に物をもらった。 ↓ ⑤金貨を道ばたにおいた。 | |
| くも ①はりねずみのために、新しいくつ下をあむ。 ↓ ②金貨は、どこかにしまっておくことをすすめる。 | からす ①はりねずみのために、新しいくつ下を作る。 ↓ ②金貨は、あたたかいくつ下につかうことをすすめる。 | リス ②はりねずみに、きのこをあげる。 ↓ ③金貨は、くつにつかうことをすすめる。 |

| | | |
|--|---|---|
| はりねずみ ①年を取っている。 ②冬ごもりのしたくさえ、たいへん。 ③金貨をひろった。 ④いろいろな動物に物をもらった。 ↓ ⑤金貨を道ばたにおいた。 | くも ①はりねずみのために、新しいくつ下をあむ。 ↓ ②金貨は、どこかにしまっておくことをすすめる。 | |
| 子ぐま ①はりねずみに、小さなはちみつをつぼを渡す。 ↓ ②はりねずみに、小さなはちみつをつぼを渡す。 | からす ①はりねずみのために、新しいくつ下を作る。 ↓ ②金貨は、あたたかいくつ下につかうことをすすめる。 | リス ②はりねずみに、きのこをあげる。 ↓ ③金貨は、くつにつかうことをすすめる。 |

3 どうしてそこにはったのかせつ明しましょう。

物語の人物相関図をつくろう

国語「はりねずみと金貨」(3年生)

1 TOSSメモ人物相関図のメリット

3年国語「はりねずみと金貨」。

物語のあらすじをつかませるため、TOSSメモを活用し、人物相関図をつくる授業を行った。この授業のメリットは3つある。

- ① 通常の半分の時間で単元が終わる。
- ② 分析のものさしを身に付けられる。
- ③ 人物相関図にまとめることで、あらすじがとらえられる。

しかも、ここで身に付けた方法は他の教材でも使うことができる。

2 分析のものさしを教える

まずは分析のものさしを教える。

- ①登場人物
- ②中心人物
- ③事件
- ④中心人物の変化

大切なのは、テンポよく進めることだ。

「登場人物をノートに書きなさい。」

「中心人物とはどんな人物ですか。」

「中心人物は誰ですか。」

テンポがよいと子どもたちは熱中する。

きちんと答えをノートに書かせておくことも大切だ。後で役に立つ。

音読と読み取りで2時間あれば十分だ。

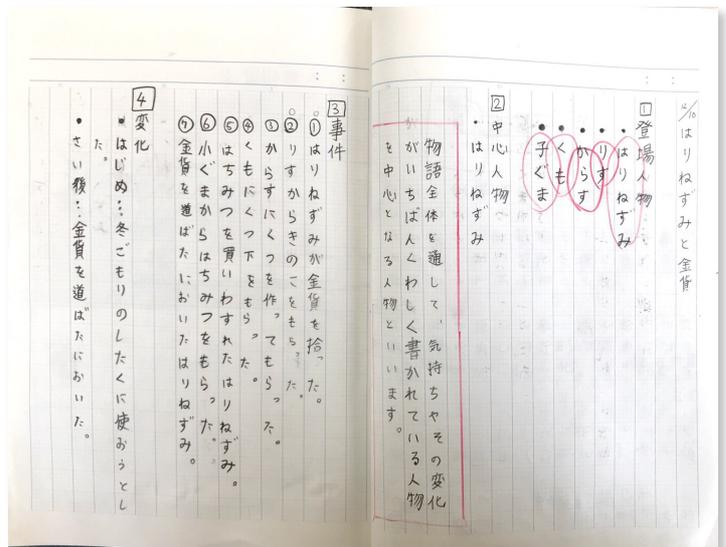
通常、ここまでの指導で終わることが多いが、これだけでは力がつかない。

自転車ではえば、補助輪をつけて走っているようなものだからだ。

「教師の支援」という補助輪を外さなければ、自分一人で進めるようにはならない。

3 TOSSメモで人物相関図をつくる

次に、自転車の補助輪を「片方外す」経験が必要だ。それが「TOSSメモ人物相関図」の授業である。



- ① TOSSメモに登場人物を書く。
- ② TOSSメモをノートに貼る。
- ③ 矢印や線を引く。(関係図)
- ④ 余白に書き込む。(関連情報)

この4つのステップで完成である。
一度学習したことをもとに人物相関図をつくっていくので、ハードルは低い。

TOSSメモの書き方は例示する(写真参考)。

1枚目が書ければ、やり方は分かる。

2枚目以降は自分でできるようになる。

ステップ②も簡単だ。TOSSメモを操作しながら、人物関係を考えられるからだ。

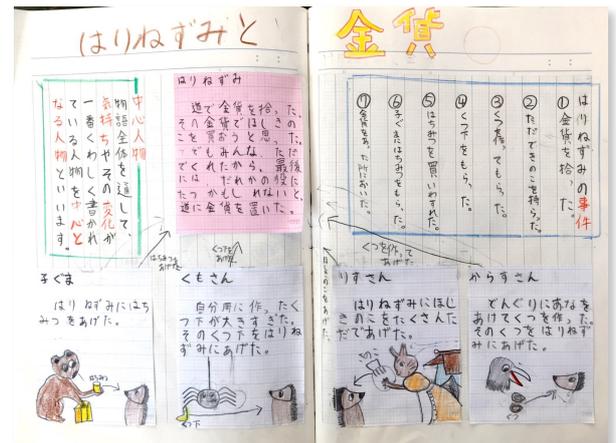
思考を可視化・操作化できるのは大きい。

この時、子どもたちは「事件」や「中心人物の変化」などを思い出しながら、TOSSメモの配置を考えていく。

「どうしてそこに置いたのか、隣の人に説明しなさい。」

このように言うことで、③の関係図も簡単にできるようになる。

余白には自由に絵や説明などを書かせればよいのだが、どうしても埋められないという子もいる。その子たちにはどう指導するか。



事件や中心人物の定義を写させる。

どちらもノートに書いてあることだ。写せばよいだけだからどの子でもできる。

4 評定、そして他の物語で応用

子どもたちのノートは必ず評定する。

評定の観点も大切だ。教師が評価した部分が子どもたちの成長に直結する。だから、ノートのていねいさや美しさだけでなく、内容についても必ず言及しなければいけない。

私の場合は次の2つを見る。

- ① キーワード
- ② 中心人物の変化

はりねずみにあげた物(=キーワード)がすべて書かれているか、はりねずみの変化が書かれているかをチェックする。ここまでで2回目の読み取りが終了。

最後に他の簡単な物語を読ませ、自力分析、人物相関図まで一人で進めさせる。

これができれば、「補助輪なし」達成である。

自分一人で読み取る力がつくのである。